

第1章 概要

近年の長大トンネルでのずり出し方法として連続ベルトコンベヤの採用事例が増えている。

しかしながら従来のタイヤ方式と比較して工法選択時の判断基準や積算の考え方等不明な点も多い。そこでずり出し方式の実態について調査・分析することにした。

本書はその報告書である。

目的

長大トンネルにおけるずり出し方式の実態を調査する。

あわせて各工法の採用理由や評価について調査し、採用の分岐点等を調べる。

調査方法

委員会の幹事会社にアンケート調査をする。

対称トンネルは延長1,000m以上で最近10年間で完成もしくは施工中の工事とする。

調査は平成18年から19年にかけて実施した。

アンケート回答事例数

タイヤ方式については84現場、連続ベルトコンベヤ方式については33現場より回答を得た。